

動物実験に関する自己点検・評価報告書

名古屋学院大学

2024 年 5 月

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合する機関内規程を定めている。 ☐ 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 機関内規程を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 名古屋学院大学動物実験規程
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 動物実験施設協議会の提唱する規程雛型がベースになっており、基本指針にもれなく適合するように整備されている。2022 年度に検討課題とした組織体制図の修正も完了した。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

2. 動物実験委員会

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。 ☐ 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 動物実験委員会を設置していない。
2) 自己点検の対象とした資料 動物実験委員会規程
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 基本指針に適合した動物実験委員会が規定され、設置、機能している。2022 年度に検討課題とした委員の増員も完了した。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

3. 動物実験の実施体制

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。 ☐ 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 動物実験の実施体制を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 名古屋学院大学動物実験規程、動物実験計画書、動物実験実施状況報告書、動物実験結果報告書、動物実験変更申請書、動物実験の自己点検票、飼養保管施設設置承認申請書、実験室設置承認申請書、施設等廃止届
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 動物実験の実施に必要な規程および各種申請様式が、基本指針に適合した形で定められている。2022年度に検討課題とした書式の変更については、各種様式の宛先を委員長から学長とし、「動物実験計画書」の「14) 動物処置法」に記入例を用意し記入事項を明確にすることで対応を完了した。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 評価結果 ■ 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。 ☐ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。 ☐ 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 名古屋学院大学動物実験規程、遺伝子組換え実験指針、遺伝子組換え実験安全委員会規程、組換えDNA 実験計画書、向精神薬試験研究施設設置者登録証、安全管理に注意を要する動物実験に関する申し合わせ
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 安全管理に注意を要する動物実験の実施に関連する手続きや様式が整備されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 評価結果 ■ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 □ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 □ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 名古屋学院大学動物実験規程、動物実験実施状況報告書、動物実験結果報告書、実験動物飼養保管状況の自己点検票、名古屋学院大学飼養保管施設における実験動物の飼育保管マニュアル、名古屋学院大学動物実験施設緊急時対策マニュアル、2023 年度実験動物導入・飼育状況表
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 名古屋学院大学動物実験規程には基本指針や飼養保管基準に適合した飼養保管方法が定められ、飼養保管施設内の標準作業手順書として「名古屋学院大学飼養保管施設における実験動物の飼育保管マニュアル」、「名古屋学院大学動物実験施設緊急時対策マニュアル」が定められている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

特になし。

II. 実施状況

1. 動物実験委員会

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、適正に機能している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 動物実験委員会規程、動物実験委員会議事録、動物実験計画書、動物実験実施状況報告書、実験動物飼養保管状況の自己点検票
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 動物実験委員会規程に基づき、学長の諮問機関として委員会を開催し、提出された動物実験計画の審議、動物実験計画の実施状況、結果の管理、飼養保管状況の点検、教育訓練等を適切に実施している。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当なし。

2. 動物実験の実施状況

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 動物実験委員会規程、動物実験委員会議事録、動物実験計画書、動物実験実施状況報告書、動物実験の自己点検票
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） すべての動物実験は、動物実験計画書を元に動物実験委員会で審査され、委員会、学長の承認を得た後に行われている。また、年度毎には結果報告書、計画終了時には結果報告書で成果の確認が行われている。責任者個々で計画書毎に自己点検も行われている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当なし。

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。 ☐ 該当する動物実験を行っていない。
2) 自己点検の対象とした資料 遺伝子組換え実験指針、遺伝子組換え実験安全委員会規程、組換え DNA 実験計画書、IASO データ
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 遺伝子組換え実験は、組換え DNA 実験計画書に基づき、遺伝子組換え実験安全委員会において遺伝子組換え実験指針に則った拡散防止措置がなされているか審議され、学長の承認を得た後に行われている。また、管理が必要な試薬、麻酔・鎮痛薬は適切に管理されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 評価結果 ☒ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 動物実験実施状況報告書、動物実験結果報告書、実験動物飼養保管状況の自己点検票、2023 年度実験動物導入・飼育状況表、名古屋学院大学飼養保管施設における実験動物の飼育保管マニュアル、名古屋学院大学動物実験施設緊急時対策マニュアル
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 動物実験実施状況報告書、動物実験結果報告書および実験動物導入・飼育状況表により月毎の実験動物の出入りがしっかり管理されている。給餌や飼育環境も問題なく管理されていることが自己点検票から確認できる。また、実験動物の導入に当たり検疫を行っており、書面検疫記録体制も整備し、運用している。2022 年度に検討課題とした飼養保管マニュアルの修正も完了した。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 評価結果 ☒ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 実験動物飼養保管施設一覧、想館 3 階図面、実験動物飼養保管状況の自己点検票、設備保守点検記録、名古屋学院大学動物実験施設緊急時対策マニュアル
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 本学の動物実験施設は、唯一想館 3 階にあって P1A レベルの飼育室を想定して設計されており、適切な拡散防止措置が講じられている。空調、照明といった管理は保守点検業者が担い適切に管理されている。2022 年度に検討課題とした飼養保管施設の設備・備品の担当窓口について、平常時の窓口を総合研究所事務室、空調・電気設備等の急を要する対応は財務課を窓口とし、マニュアル及び掲示を改めた。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

6. 教育訓練の実施状況

1) 評価結果 ☒ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 2023 年度動物実験規程講習会受講者名簿、動物実験規程講習会テキスト、動物実験規程講習会資料集、2023 年度組換え DNA 実験安全講習会受講者名簿、組換え DNA 実験安全講習会テキスト、DNA 実験安全講習会資料集
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 飼養保管基準に基づいた、また、動物愛護に則った動物実験の教育訓練が実験動物規程講習会として実施されている。この講習会を受講した者のみ飼養保管施設に入れるよう電子錠の管理がなされている。また、DNA 組み換え動物に関わる実験者に向けても教育訓練が実施されている。2022 年度に検討課題とした再教育訓練について、実験動物管理者については実施された。
4) 改善の方針、達成予定時期 動物実験実施者の再教育体制について、動画による教育等も視野に入れ、継続して検討する。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 評価結果 ☒ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 動物実験の自己点検票、実験動物飼養保管状況の自己点検票、本学ホームページ (https://www.ngu.jp/outline/about/information/animal/)、大学要覧、外部検証結果
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 本学ホームページ上や大学要覧で規程、動物実験の現状を適正に公開している。
4) 改善の方針、達成予定時期 今年度の自己点検・評価が終了した後に、関係資料を本学ホームページで情報を公開する。

8. その他

（動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果）

--